

平成 19 年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

阿草 研究室	氏 名	平 山 雄 斗
卒業研究題目	通信指向プログラミングによる WS-CDL 記述支援	

本研究報告では, 通信の大域的な構造の把握が容易な CDL 大域記述の要素と WS-CDL の要素の対応付けを示す. CDL 大域記述から一般に煩雑となる WS-CDL 記述を生成することで Web サービス開発の支援を行う.

CDL 大域記述はセッションを構成し, 連携する複数サービス間の大域的な振る舞いを通信に基づいて記述する通信指向プログラムのための体系である. 記述された大域的な振る舞いは End Point Projection によって等価なそれぞれの局所的な振る舞いに変換される. End Point Projection によって, 並行に動作するそれぞれのサービスの振る舞いを把握することなく, 把握しやすい大域的な記述によって複雑な Web サービスを構成できる.

WS-CDL はプラットフォームとプログラミングモデルから独立して, サービス間の通信を正確に記述する事を目的としている. これにより, 異なった組織や独立したプロジェクト同士の連携でのサービス間の通信規則を気にせずにお互いの振る舞いを表す事ができる. 実際の参加者の振り付けは XML ベースの記述で表現され, その記述はそれぞれのサービスに対し個別に作成する必要は無く, 一つの記述で双方の振る舞いを表現する事ができる.

CDL 大域記述から WS-CDL 記述への対応付け手法を示した後, 例として, Consumer と Retailer 間の振る舞いの CDL 大域記述を WS-CDL 記述へ変換し, 得られた WS-CDL 記述を WS-CDL+ に対する実行エンジンを評価器として用いて対応付けの検証を行う.

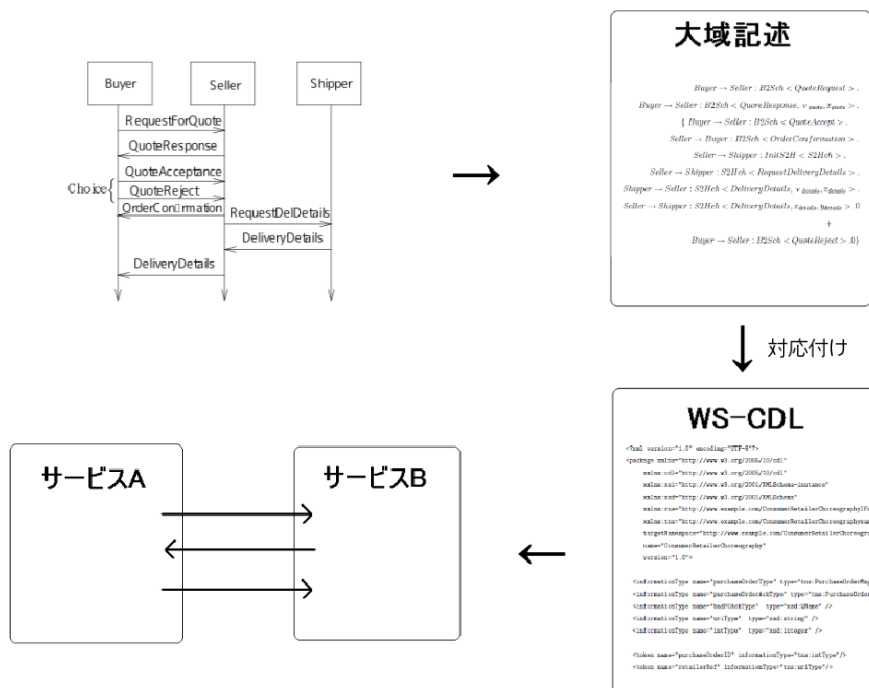


図: 変換の流れ